

カナダの金融市場動向 Weekly Report

【2019年1月12日～2019年1月18日の推移】

【1】先週の回顧

先週のカナダ・ドルは、対円で上昇しました。カナダ5年国債利回りも上昇しました。

米中貿易摩擦の緩和期待や中国政府が景気支援策を発表したことから米国株が上昇し、投資家のリスク選好姿勢が強まったことなどを背景にカナダの通貨、金利は上昇しました。また、原油価格が上昇したことも相場を後押ししました。

先週、カナダのCPI(消費者物価指数)が発表され、予想よりも強い結果になりました。しかし、航空運賃や旅費の上昇等、ホリデーシーズンによる一時的な要因で上昇しており、コアCPIに関してはカナダ銀行(中央銀行)の誘導目標を下回っていたため、市場が大きく反応する材料とはなりませんでした。

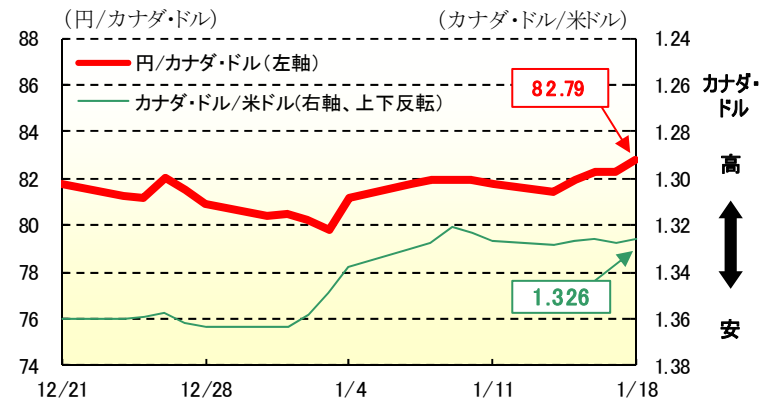
【2】今週の見通し

今週、カナダでは、小売売上高の発表が予定されています。自動車販売の後退などを背景に前回の結果から大幅に落ち込むことが予想されています。先日発表されたコアCPIは、中銀の誘導目標を下回っていることが示されましたが、今週の小売売上高が軟調な結果となれば、利上げペースの鈍化が意識されることになり、カナダの金利、通貨を下押しする材料になることが見込まれます。

一方、株価、原油価格に関しては、米中貿易摩擦の緩和期待や中国政府が景気支援策を発表したことなどを背景に堅調な動きを見せていることから、カナダの金利、通貨を下支えすることが予想されます。

【カナダ・ドル 為替推移】

(2018年12月21日～2019年1月18日)

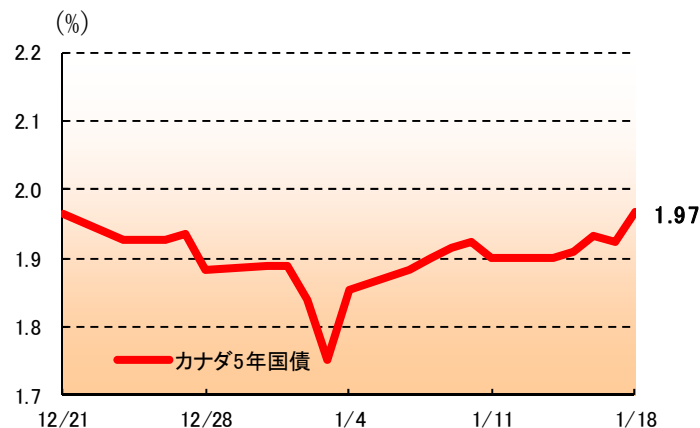


※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

【カナダ 金利推移】

(2018年12月21日～2019年1月18日)



(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <https://www.daiwa-am.co.jp/>